

# 大阪湾のこれまでの取り組み評価

# 全体G 最終評価とりまとめ方針(案)

## 1)水質の状況

- 湾口部～湾央部:水質改善が進行。湾奥以外の海域で栄養塩不足の声もあり。
- 湾奥部:汚濁の改善がみられず、貧酸素状態がみられる。

## 2)施策の効果

- 底層DO、表層COD:顕著な変化は認められず。
- 一方で、施策の効果とみられる変化あり。(汚濁物質濃度の減少、再生された干潟等での生物生息など)

## 3)今後の展望

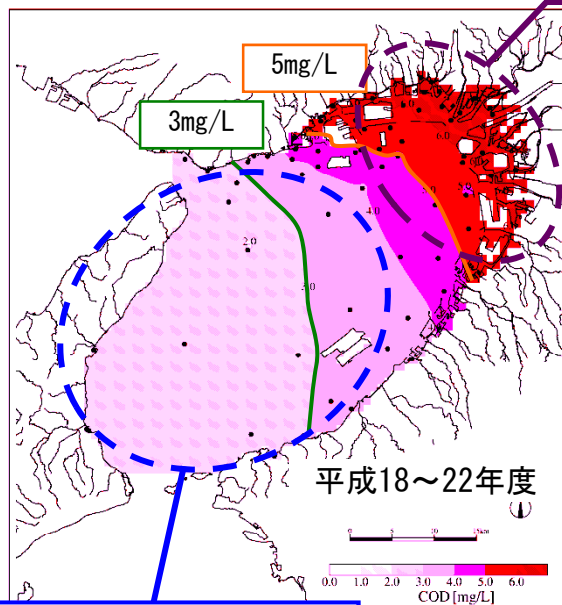
- 底層DO、表層COD:長期的には改善見込み。(「閉鎖性海域中長期ビジョン」(閉鎖性海域中長期ビジョン策定に係る懇談会;有識者、環境省等)におけるシミュレーション結果)

## 4)多様な主体との連携の状況

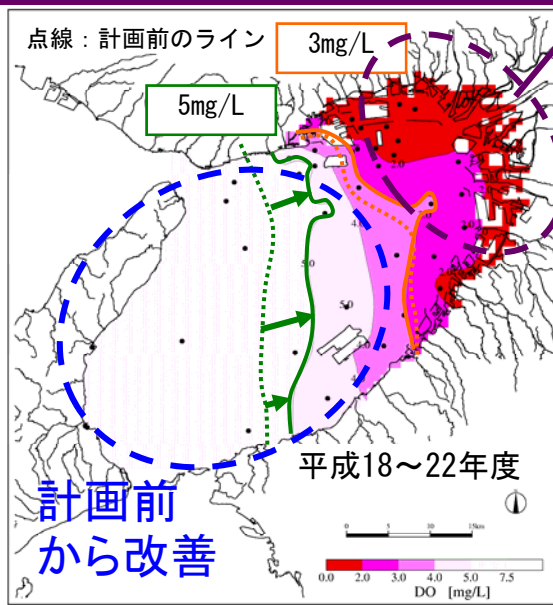
- 海・川・山の住民参画による取り組みへの参加者が増加。
- 環境にふれあう場が拡大。

# 1) 水質の状況

表層COD(夏季平均)



底層DO(年最低値)

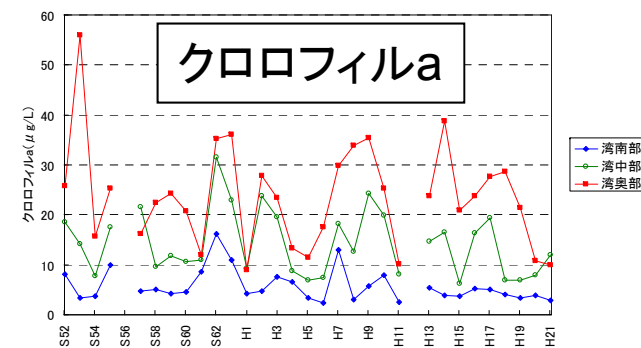
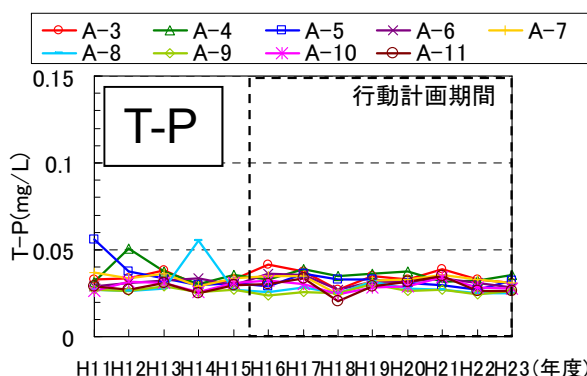
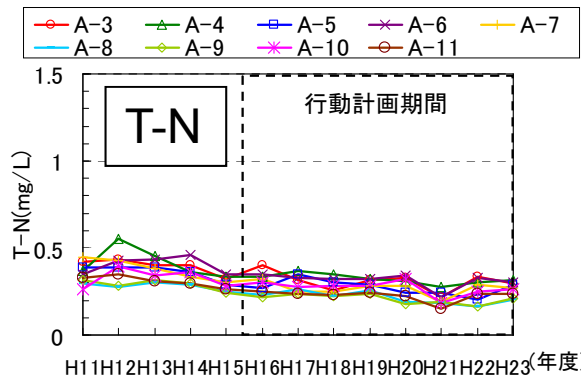


湾奥部

● 表層COD、底層DOとも  
目標未達成  
→ 依然として汚濁の改善  
がみられず、貧酸素状  
態もみられる。

湾口部～湾央部

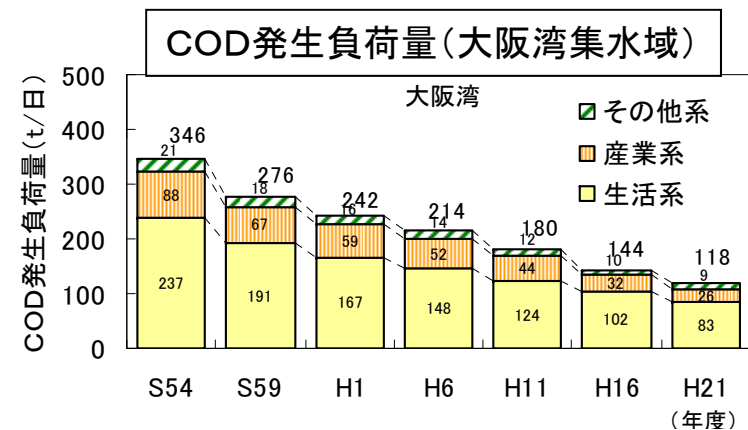
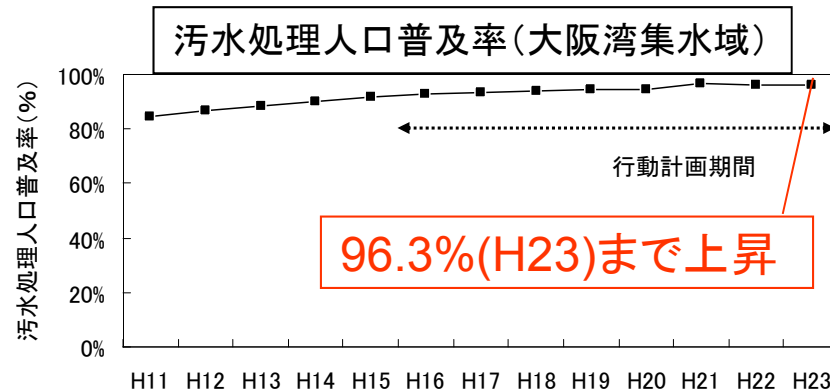
- 栄養塩類(T-N、T-P)濃度が低下。
- 植物プランクトン(クロロフィルa)も減少。



## 2) 施策の効果

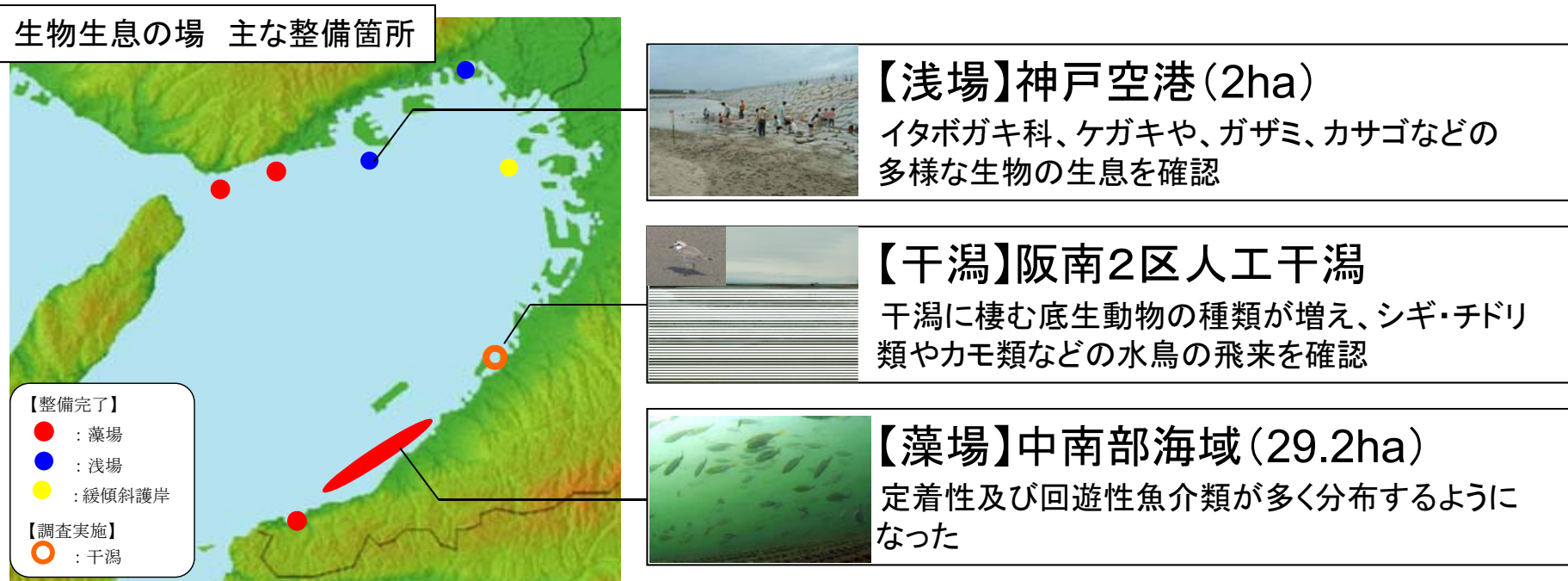
### ① 汚濁物質濃度の減少

● 下水道事業等の生活排水対策実施により、大阪湾への流入負荷は確実に減少。

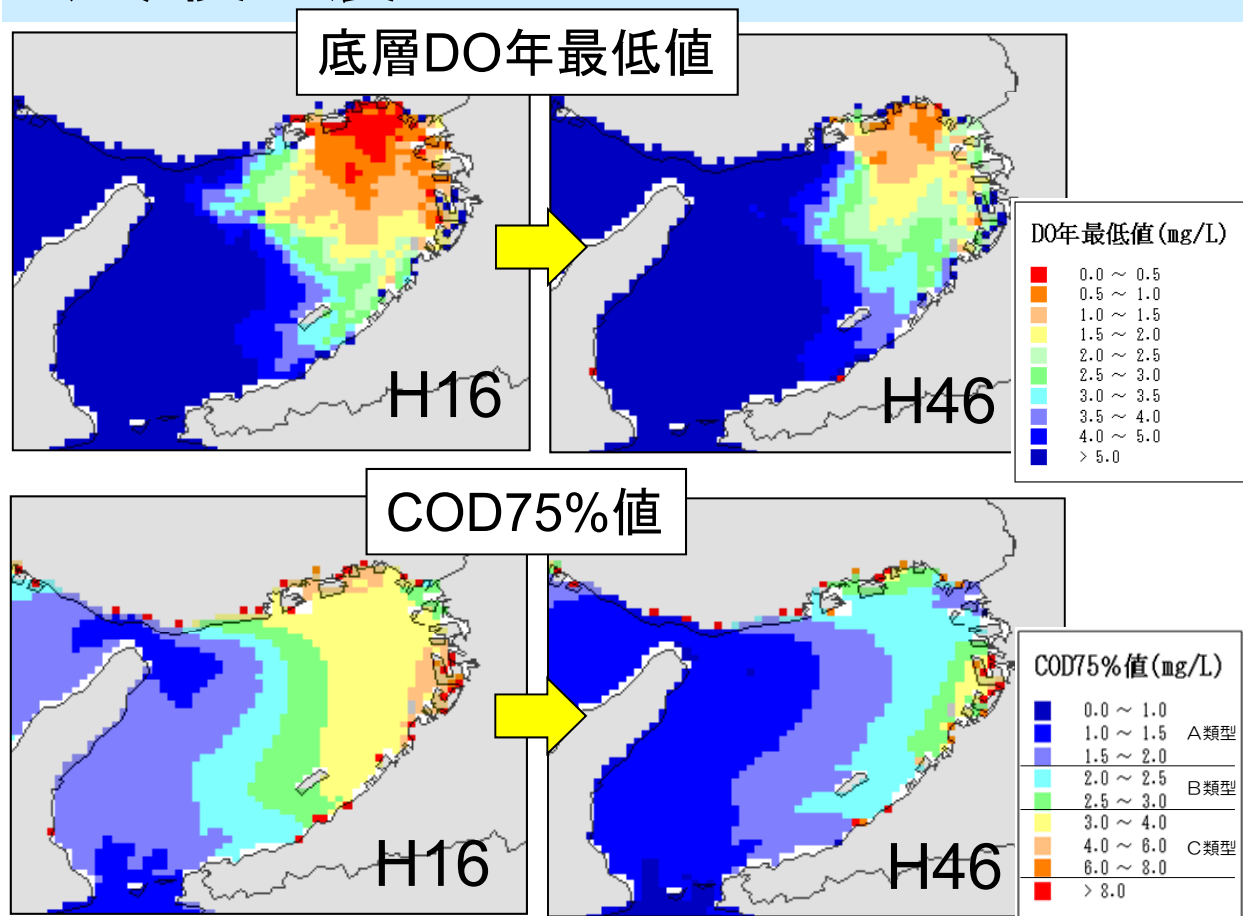


### ② 再生された干潟・浅場等での生物生息

● 再生された干潟・浅場等では、藻類、底生生物、魚類、鳥類等の多様な生物の生息を確認。



### 3) 今後の展望



- 大阪湾の底層DO、CODは長期的には改善傾向がみられる。  
(環境省等シミュレーション結果)

出典)閉鎖性海域中長期ビジョン(平成22年3月)

しかし、閉鎖性海域の水質改善には時間を要する。

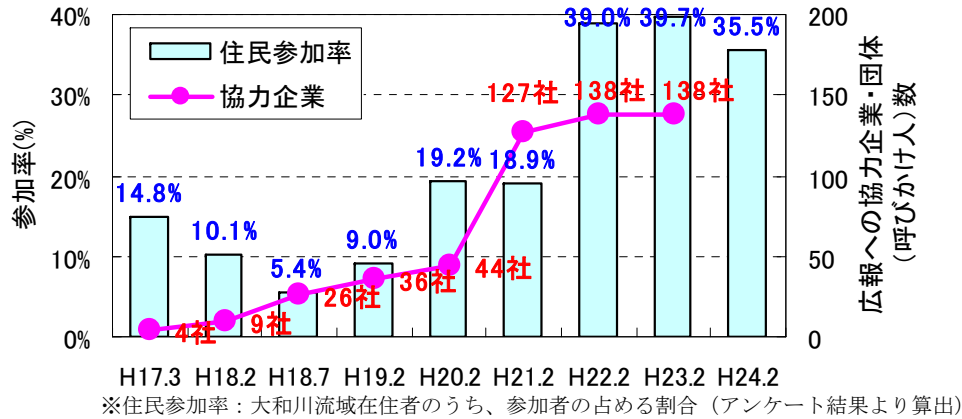


間断なく次の施策に取り組むことができるよう、関係各省庁・自治体等が協力しながら、「大阪湾再生行動計画」の最終年である平成25年度中に最終評価をとりまとめる。

# 4) 多様な主体との連携の状況

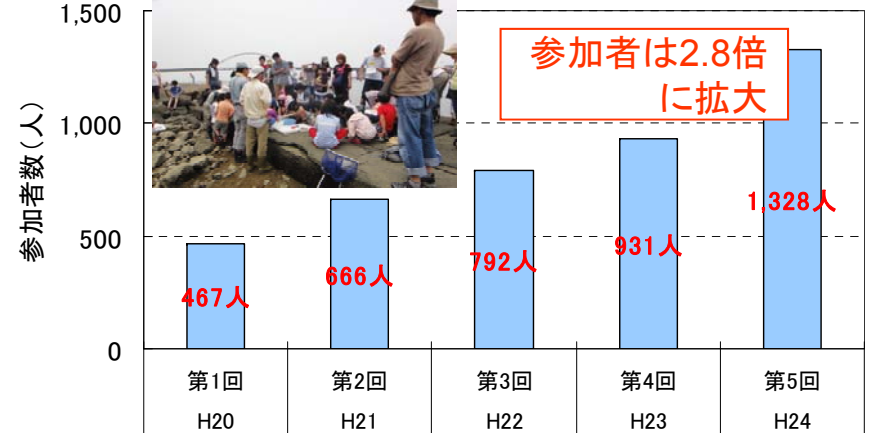
## ① 住民参画による取り組みへの参加者数の増加

### ● 大和川流域での生活排水対策



- 住民参加率や協力企業が当初より大幅に拡大
- 強化月間中の水質改善効果は最下流で約14%削減

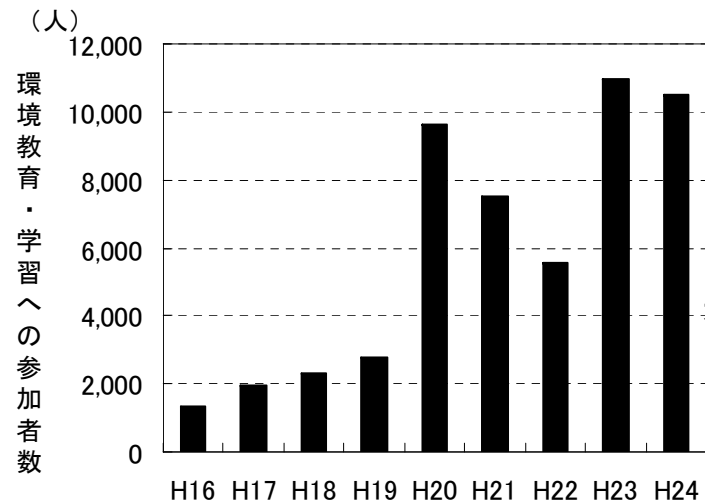
### ● 大阪湾生き物一斉調査（市民参加型プログラム）



- 市民にとって分かり易く親しみながらのモニタリングが受け入れられた
- 市民参加型プログラムの大きな成果

## ② 環境にふれあう場の拡大

### ● 生物観察会、シンポジウム等の多様なイベントを開催し、参加者数は増加傾向。



オオクワガタの棲める森づくり  
(箕面国有林)



ウミガメ・エコツアーリズム  
(神戸空港人工海水池)



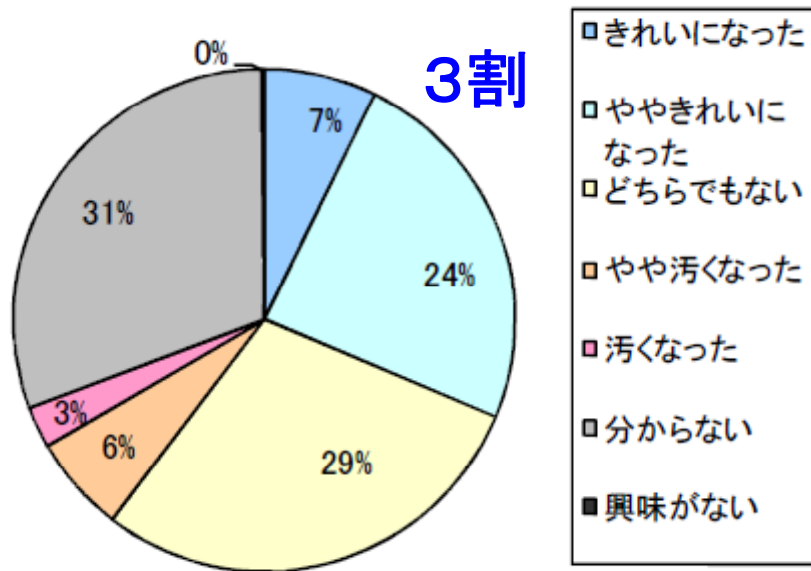
ほっといたらあかんやん！  
大阪湾フォーラム



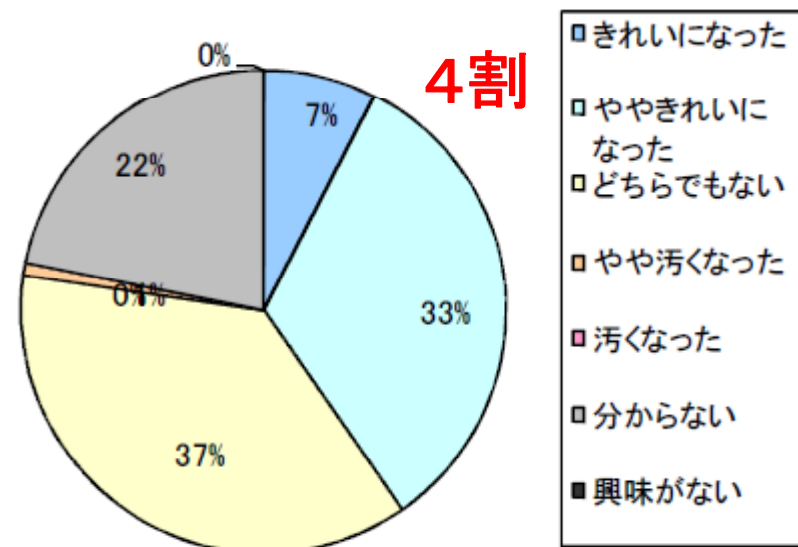
# 大阪湾再生 アンケート結果(速報)

Q 概ね10年前と比べてどうなったか？

海の色 **N=738**(沿岸住民)



海の色 **N=67**(市民・NPO団体)



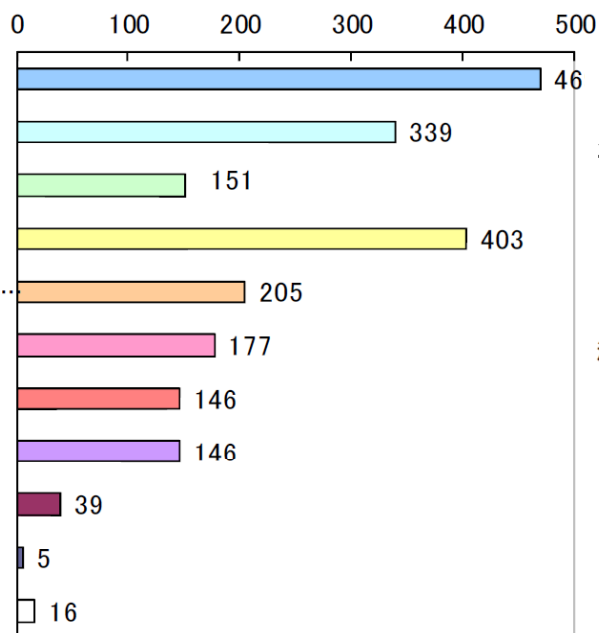
海への関わりの多いNPOの方は約4割が改善してきていると評価



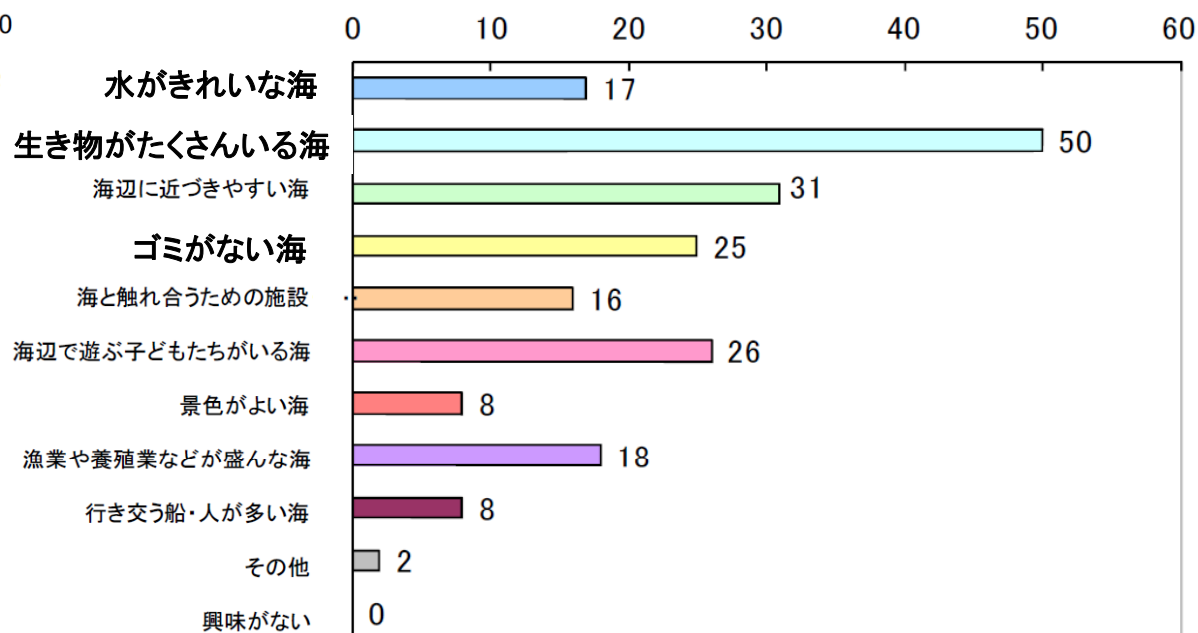
しかし、半数以上は大阪湾の再生についての評価は低い

# Q 大阪湾の望む姿について

## 沿岸住民



## 市民・NPO団体



水がきれいな海    ごみがない海    生物がたくさんいる海

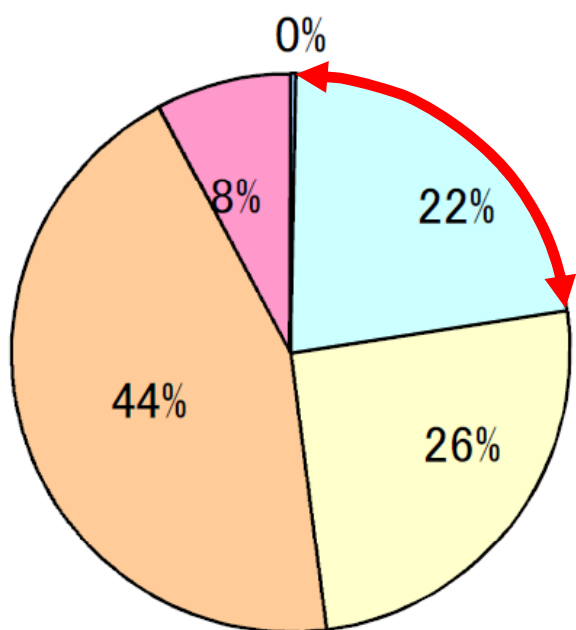
特に市民・NPO団体の方は、生き物がたくさんいる海

※生き物一斉調査でモニタリングしているNPO団体の声

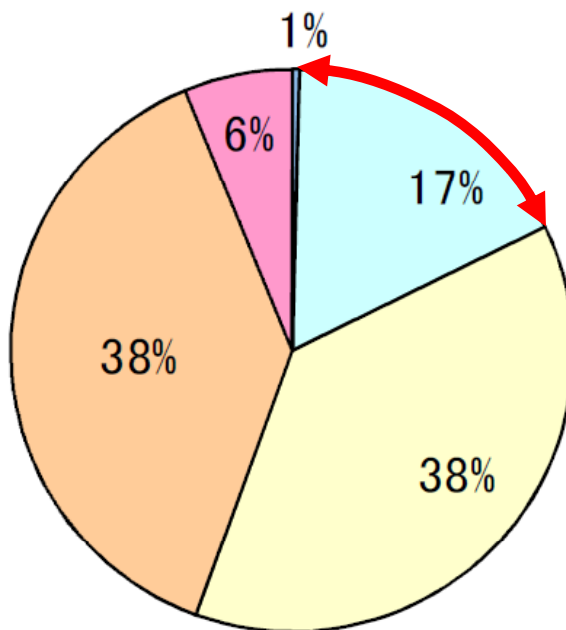


## Q 望ましい大阪湾の姿になっているか

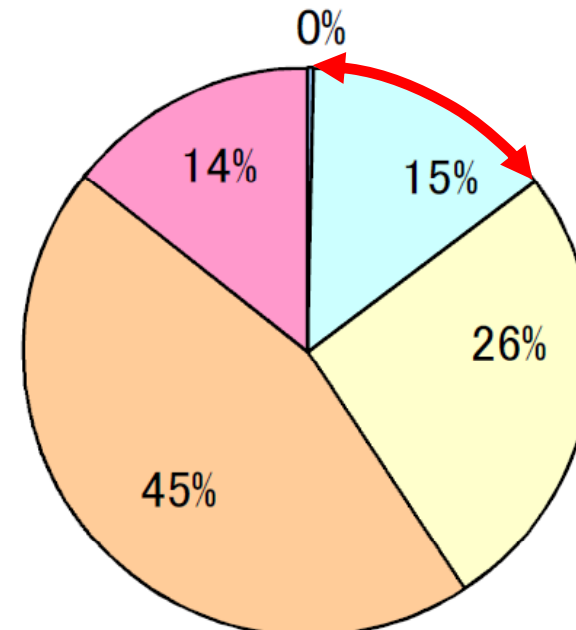
水がきれいな海



生き物がたくさんいる海



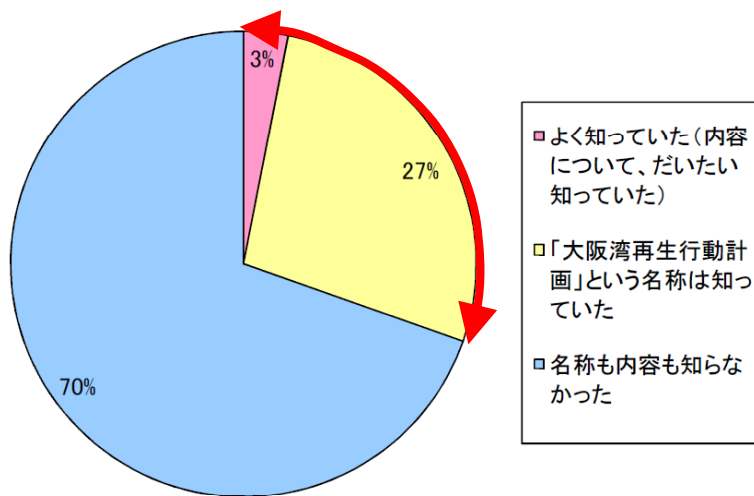
ごみがない海



**8割以上の回答者は  
望ましい大阪湾にはなっていない**

- 望む姿になっている
- おおむね望む姿になっている
- どちらでもない
- あまり望む姿になっていない
- 全く望む姿になっていない

# 大阪湾再生行動計画の認知度



## ■名称の認知度

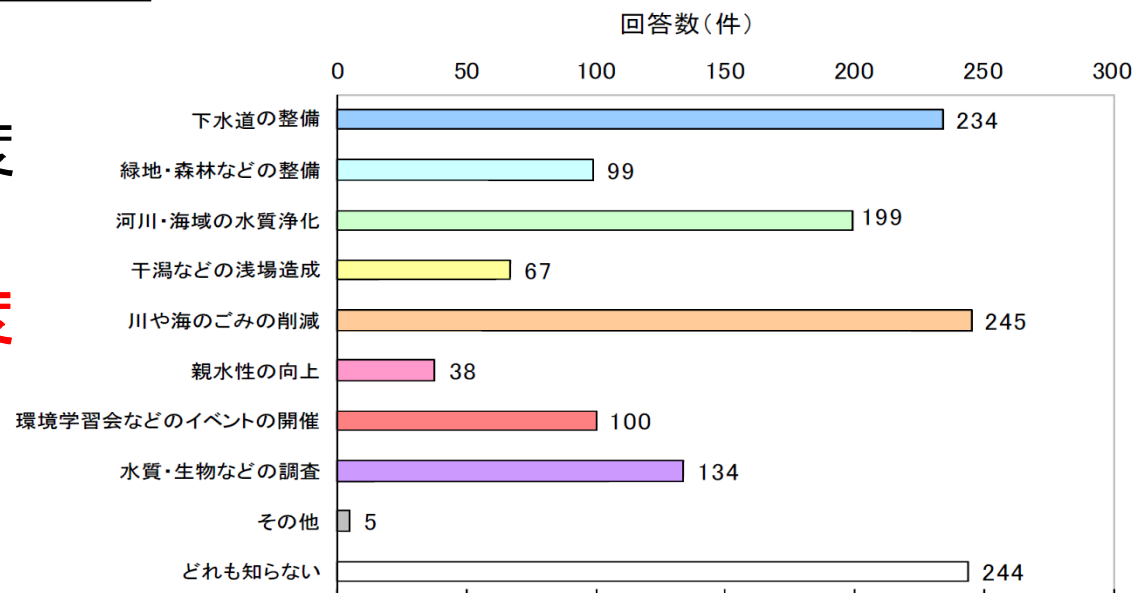
約3割(7割は知らない)

## ■行動計画の内容の認知度

下水道整備

でも31%の低い認知度

234人／738人



施策の継続・充実、市民参画の拡大が引き続き必要

# 平成26年度以降の取り組み方針(案)について

# 全体G 平成26年度以降の取り組み方針(案)

森・川・海のネットワークを通じて、美しく親しみやすい豊かな『魚庭(なにわ)の海』の実現に向けて、引き続き以下の項目についての取り組みの推進や課題を踏まえ、行動計画を取りまとめる。

## 1) 施策の継続・充実

- 閉鎖性海域の水環境改善には時間を要する。  
→これまでの施策(流入負荷削減、ごみ回収、浅場・干潟・藻場造成等)の継続・充実が必要。

## 2) エリア毎の取り組み方針の明確化

- 湾奥部と湾口部・湾央部で異なるアプローチが必要。  
→エリア毎の取り組み方針を明確にする。

## 3) 目標の再設定

- 多くの人々が海を楽しみながら手軽に環境のモニタリングができることが重要。  
→目標の再設定を検討(わかりやすい指標による評価等)

## 4) 多様な主体との連携・協働等

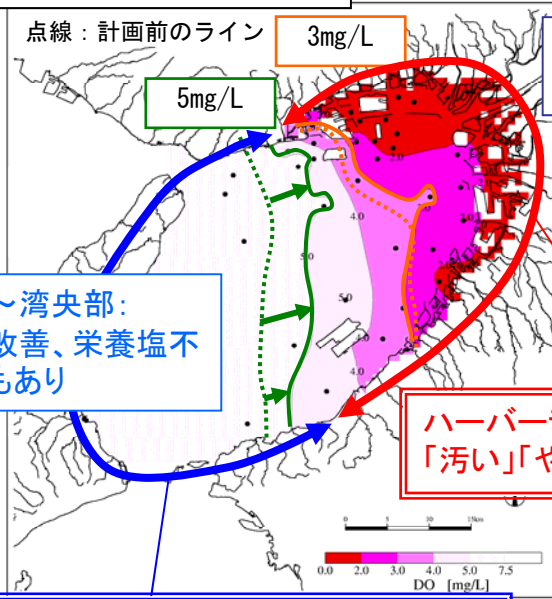
- 早期に多様な主体(既存協議会、市民・NPO団体のネットワーク組織、学識者、企業、漁業者等)との連携・協働等の仕組みを検討。

## 5) アピールポイントの利用促進

- 一般市民が身近に体感・実感できるスポットとして、利用促進の充実が必要。

# エリア毎の課題

## 底層DO(年最低値)

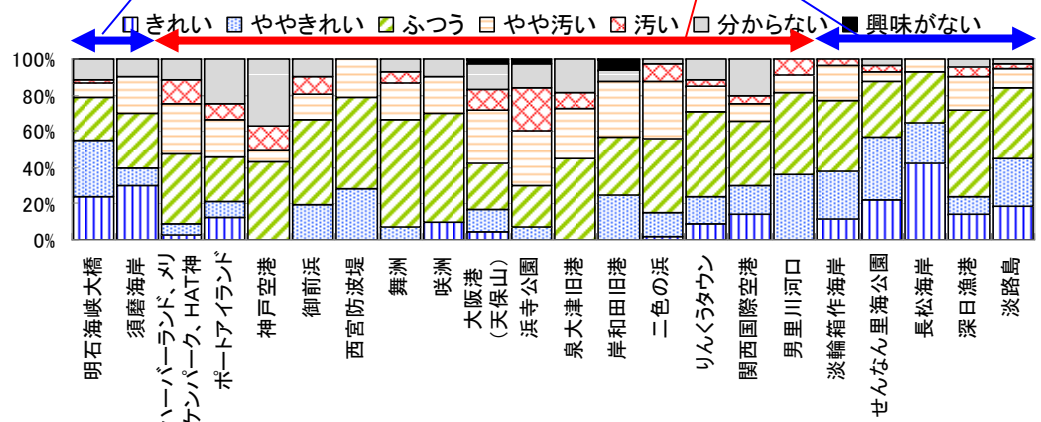


湾口部～湾央部：  
水質が改善、栄養塩不足の声もあり

ハーバーランド～男里川河口：  
「汚い」「やや汚い」が多い

須磨海岸～淡路島～淡輪箱作海岸：  
「きれい」「ややきれい」が多い

## 市民アンケート結果(海の色)



- 湾奥部では依然として水質が汚濁。湾口部～湾央部では水質が改善し、湾奥以外の海域で栄養塩不足の声もあり。
- 市民アンケート結果(海の色)も、同様のエリアで評価に差異。

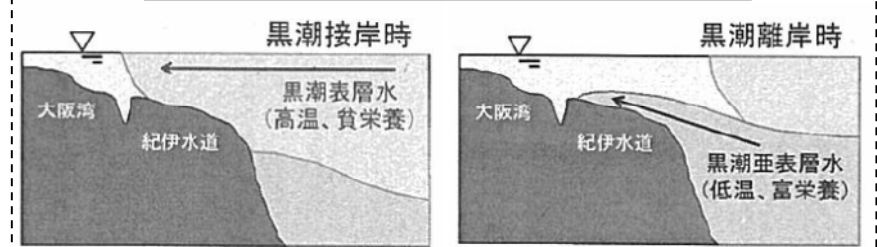


- 水質改善、生態系の回復に向けて、異なるアプローチが必要。



- 最新の知見を基に、エリア毎の取り組み方針を明確化する。

## 物質循環に関する知見の例



出典) 平成23年度大阪湾再生推進会議 水環境勉強会資料 (大阪大学 西田教授)

外海からの影響の例(黒潮の離接岸)

# 大阪湾再生行動計画を取り巻く最近の流れ

瀬戸内海における今後の目指すべき将来像と環境  
保全・再生の在り方について(答申)

: 中央環境審議会 平成24年10月

基本的考え方として「きめ細やかな水質管理」「底質環境の改善」「沿岸域における良好な環境の保全・再生・創出」「自然景観および文化的景観の保全」等が掲げられた。

推進方策として「湾・灘ごとに、関係行政機関、漁業者や市民団体等が参画する協議会をつくるなど、幅広い主体の緊密な連携・調整を図ることが重要である」とされた。

生物多様性国家戦略2012-2020

: (環境省) 平成24年9月

生物多様性の状況や国別目標、その達成のためのロードマップや行動計画などが示され、基本戦略のひとつとして「森・里・川・海のつながりを確保する」等が掲げられている。

推進体制として「生物多様性民間参画パートナーシップ」、「生物多様性自治体ネットワーク」等が設立されている。

海洋基本計画: 内閣官房総合海洋政策本部 平成20年3月

基本的な方針として、「海洋の開発および利用と海洋環境の保全との調和」、「科学的知見の充実」、「海洋の総合的管理」等が示され、政府が総合的かつ計画的に講ずべき施策として、「海洋環境の保全等」、「海洋調査の推進」、「沿岸域の総合的管理」等が位置づけられた。

第四次環境基本計画

: (環境省) 平成24年4月

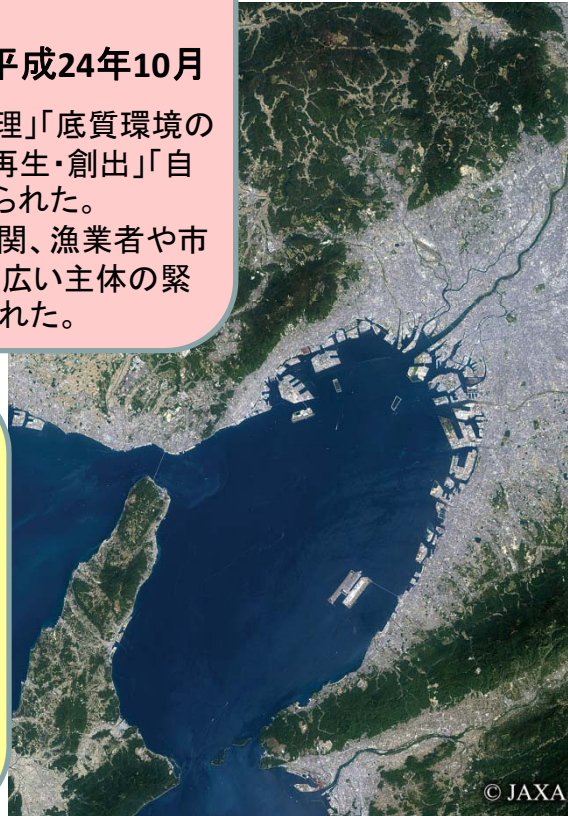
目指すべき持続可能な社会を「低炭素」・「循環」・「自然共生」の各分野を統合的に達成することに加え、「安全」がその基盤として確保される社会と位置づけ。引き続き「閉鎖性水域などにおける水環境の保全」等が掲げられている。

海洋生物多様性保全戦略

: 環境省 平成23年3月

海洋の生態系の健全な構造と機能を支える生物多様性を保全して、海洋の生態系サービス(海の恵み)を持続可能な形で利用することを目的として策定。

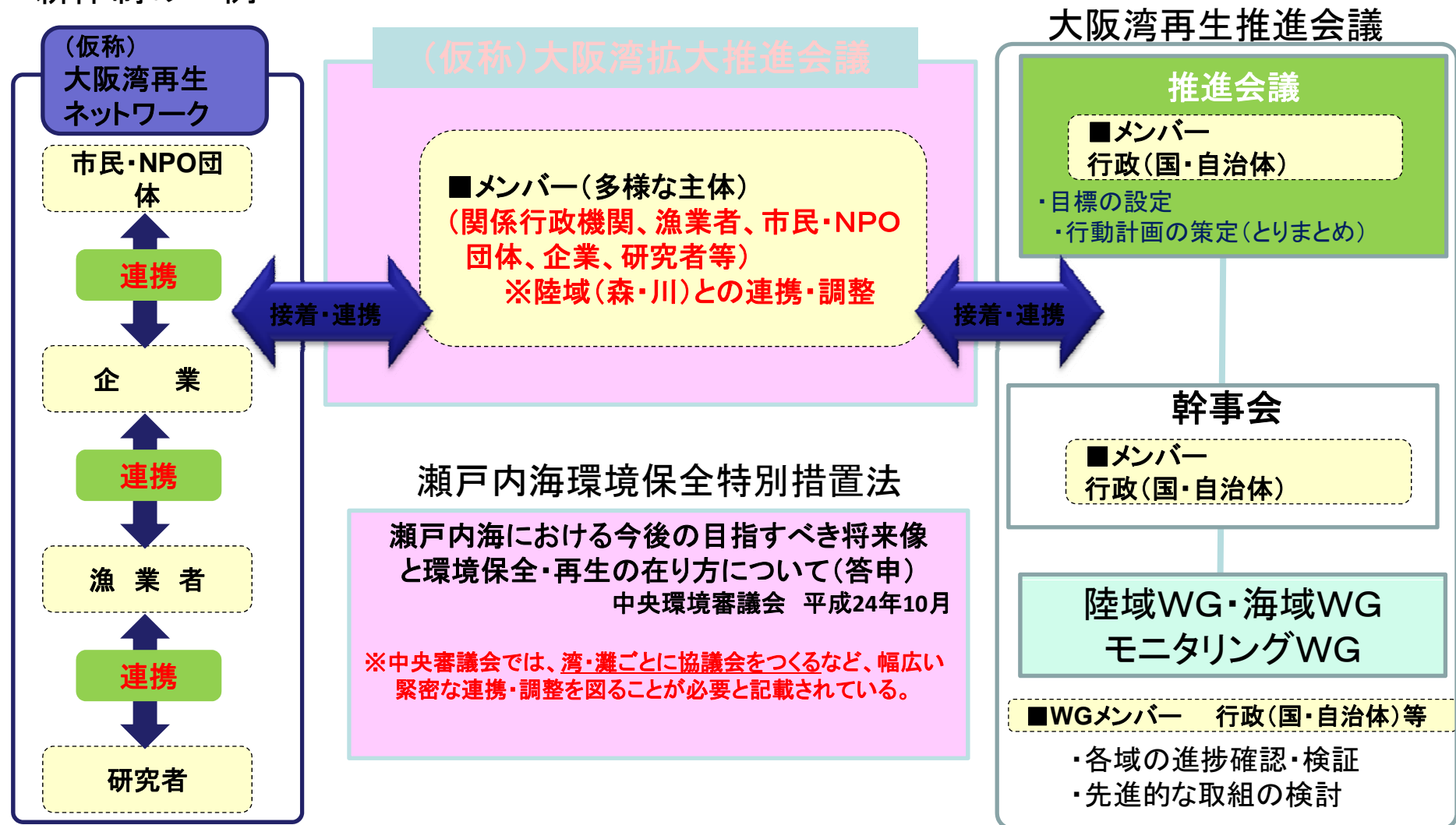
基本的視線として、「海洋生物多様性の重要性を認識」等、施策の展開として「海域の特性を踏まえた対策の推進」等が示された。





# 大阪湾再生行動計画 新しい体制をどうしていくべきか

新体制の一例

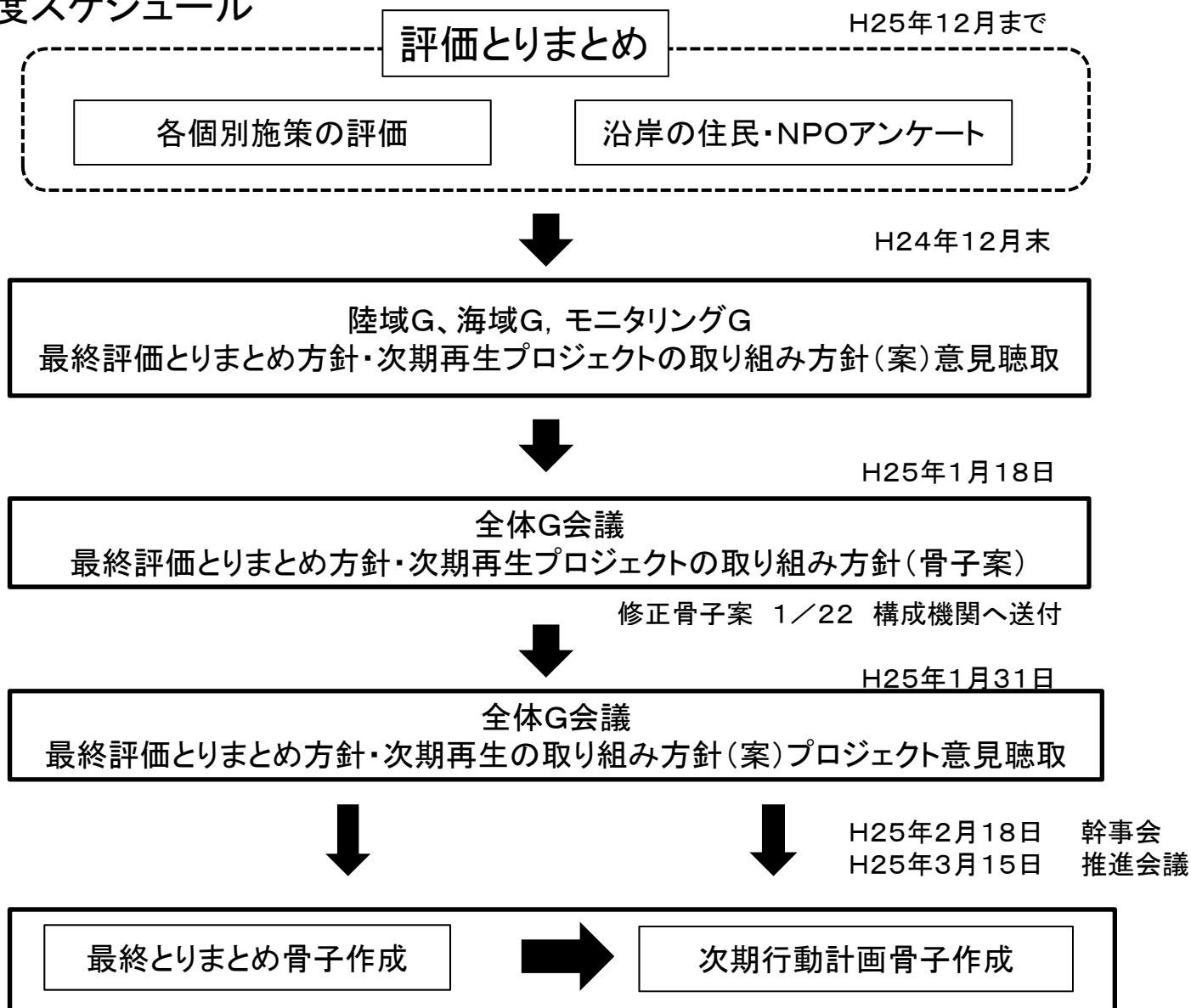


今後、改定される瀬戸内海環境保全基本計画と大阪湾再生行動計画は目指す方向は同じ



# ■最終評価取りまとめ及びH26年度以降取り組み方針

## ■H24年度スケジュール



# ■最終評価取りまとめ及びH26年度以降取り組み方針

## ■H25年度スケジュール

